

第3号議案

博物館相当施設の指定について

博物館法（昭和26年法律第285号）第29条の規定により、次のとおり博物館に相当する施設として指定することについて提案します。

令和2年7月10日

広島県教育委員会教育長 平川理恵

1 提案の要旨

アートギャラリーミヤウチを、博物館に相当する施設として指定する。

2 指定事項

設置者の名称及び住所	公益財団法人みやうち芸術文化振興財団 廿日市市宮内字高通4347番地2
施設の名称	アートギャラリーミヤウチ
施設の所在地	廿日市市宮内字高通4347番地2

3 指定する理由

公益財団法人みやうち芸術文化振興財団代表理事から申請のあったアートギャラリーミヤウチについて、博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第20条の規定に基づき審査したところ、博物館に相当する施設の指定要件を備えていると認められるため。

4 登録年月日

令和2年 月 日（議決の日）

5 根拠規定

博物館法

(博物館に相当する施設)

第 29 条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第二十七条第二項の規定を準用する。

博物館法施行規則

(指定要件の審査)

第 20 条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、博物館に相当する施設として指定しようとするときは、申請に係る施設が、次の各号に掲げる要件を備えているかどうかを審査するものとする。

- 一 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること。
 - 二 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること。
 - 三 学芸員に相当する職員がいること。
 - 四 一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること。
 - 五 一年を通じて百日以上開館すること。
- 2 前項に規定する指定の審査に当つては、必要に応じて当該施設の実地について審査するものとする。

「アートギャラリーミヤウチ」の博物館に相当する施設の指定について

指定の要件		アートギャラリーミヤウチの状況	学識経験者所見	適否								
博物館法施行規則 第20条第1項	博物館に相当する施設指定審査要項 (平成16年7月29日施行)											
<p>【第1号】 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること</p>	<p>【2 資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料は、実物、標本、模型等の所蔵資料を有することを原則とするが、寄託資料であってもよいこと ・所蔵資料は常に整理分類され保管されていること 	<p>◆広島や地元にはゆかりのある作家の作品を中心に、絵画、立体、映像等の芸術に関する資料全534点を所持。</p> <p>◆中でも昭和41年から63年に広島市中区に存在していた画廊「梶」の所蔵作品を引き継いだ「梶コレクション」は、戦後の広島美術史を知る上で貴重な資料である。</p> <p>◆資料については、資料目録を作成し、適切に分類、保管がされている。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>資料の種別</th> <th>資料の種類及び数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>絵画</td> <td>近代・現代絵画（油彩、水彩、版画、素描、水墨、アクリル画、ペン画、ガラス絵）所蔵資料：498点</td> </tr> <tr> <td>立体</td> <td>彫刻、陶、ミクストメディア、刺繍 所蔵資料：17点、寄託資料：7点</td> </tr> <tr> <td>写真・映像</td> <td>インクジェットプリント、ゼラチンシルバープリント、DVD-R、HDD 所蔵資料：12点</td> </tr> </tbody> </table>	資料の種別	資料の種類及び数量	絵画	近代・現代絵画（油彩、水彩、版画、素描、水墨、アクリル画、ペン画、ガラス絵）所蔵資料：498点	立体	彫刻、陶、ミクストメディア、刺繍 所蔵資料：17点、寄託資料：7点	写真・映像	インクジェットプリント、ゼラチンシルバープリント、DVD-R、HDD 所蔵資料：12点	<p>現在の、地域における美術活動を示すことができる資料、および広島戦後の美術活動の研究に資する作品、資料が所蔵資料として備えられており、堅実な博物館活動の展開が期待できる。</p>	適
資料の種別	資料の種類及び数量											
絵画	近代・現代絵画（油彩、水彩、版画、素描、水墨、アクリル画、ペン画、ガラス絵）所蔵資料：498点											
立体	彫刻、陶、ミクストメディア、刺繍 所蔵資料：17点、寄託資料：7点											
写真・映像	インクジェットプリント、ゼラチンシルバープリント、DVD-R、HDD 所蔵資料：12点											
<p>【第2号】 博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること</p>	<p>【1 施設 (1)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物はおおよそ132㎡以上の延べ面積を有すること ・陳列室、資料保管室、事務室等が整備されていること 	<p>◆敷地面積 503.67㎡</p> <p>◆延床面積 502.82㎡</p> <p>◆展示室、管理・研究室（事務室研究室併用）、収蔵庫、が整備されている。</p> <p>◆改築して展示室等を作り、博物館用に作られた建物ではないが、作品の保管など工夫して取り組んでいる。</p>	<p>建物の構造上、作品保管空間の環境確保に困難を伴うが、適切な対応、処置がなされている。</p>	適								
<p>【第3号】 学芸員に相当する職員がいること</p>	<p>【3 職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員は一般職員のほか、専門的職員として次のいずれかに該当する職員を有すること。 ○学芸員有資格者 ○学芸員に相当するもの 	<p>◆代表者 1名</p> <p>◆学芸員 1名</p> <p>◆事務員 2名</p>		適								

<p>【第4号】 一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること</p>	<p>【4 事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展示は、常設展はもとより、特別展等も行っていること ・案内書、パンフレット、解説書等印刷物を定期的に刊行していること ・各種の講習会、講演会、映画会等が行われていること ・資料について調査研究活動が行われていること ・その他各種の教育活動が配慮されていること 	<ul style="list-style-type: none"> ◆常設展に加え、毎回設定したテーマごとの企画展を実施している。 ◆収蔵作品に関する図録、各常設展・企画展ごとに展示目録の作成を行っている。 ◆アーティスト・トーク、幼児・児童向けの創作ワークショップ等を開催している ◆広島戦後美術史に関する収蔵作品の調査、公開を進めている。 ◆小学校の課外授業として、小学生を展覧会へ招待し画家自身がガイドを実施。また、近隣地区の小学生の作品展を実施している。 ◆展示スペースの貸し出しを行い、作家同士の交流や芸術を通じた人の交流を促進している。 	<p>通常の展示活動と共に、市民や学校に向けての働きかけ、教育活動も積極的に実施しており、充実した事業展開がみられる。</p>	<p>適</p>												
<p>【第5号】 1年を通じて100日以上開館すること</p>	<p>【5 運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館園の設置規定、利用規則、職員組織規定等館園の運営に必要な諸規定が整備されていること。 ・開館日数が年間を通じ100日以上であること。 ・館園の運営が年間を通じて一般に公開されていること。 ・年間利用者は、当該地域の人だけでなく、他地域の人にもわたっていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆当博物館は、(公財)みやうち芸術文化振興団により運営されている。同財団は定款を備え、アートギャラリーみやうちも管理運営規則が定められている。 <table border="1" data-bbox="1048 751 1451 911"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>開館日数</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>242</td> <td>2,778人</td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>253</td> <td>4,525人</td> </tr> <tr> <td>R01</td> <td>253</td> <td>2,401人</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ◆開館日は全て一般公開されている。 ◆来館者は廿日市市の方が主であるが、広島市からの来館者も多く、企画展の際は全国からの来訪者が訪れる。 	年度	開館日数	入館者数	H29	242	2,778人	H30	253	4,525人	R01	253	2,401人	<p>持続性をもって円滑に運営されている。</p>	<p>適</p>
年度	開館日数	入館者数														
H29	242	2,778人														
H30	253	4,525人														
R01	253	2,401人														
<p>総合所見</p>		<ul style="list-style-type: none"> ◆博物館法施行規則第20条第1項各号に定める要件及び博物館に相当する施設指定審査要項に定める要件を備えている。 	<p>施設面での制約が多い中、堅実かつ積極的な活動を行っており、今後も博物館施設として機能を十分に果たすことができると考える。</p>	<p>適</p>												

登録博物館と博物館相当施設の相違

	登録博物館	博物館相当施設
定義	歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関で、博物館登録原簿に登録されたもの（法第2条①）	博物館の事業に類する事業を行う施設で、博物館に相当する施設として指定したもの（法第29条）
設置主体	<ul style="list-style-type: none"> ・地方公共団体 ・一般社団法人・財団法人 ・宗教法人 ・政令で定める法人 （法第2条①）	制限なし
登録又は指定主体	都道府県教育委員会が登録（法第10条）	①国又は独立行政法人が設置する施設にあっては文部科学大臣 ②その他の施設にあっては当該施設の所在する都道府県の教育委員会（法第29条）
職員	①館長及び学芸員の必置（法第4条） ②法に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること（法第12条2号）	学芸員に相当する職員の必置（規則第19条3号）
年間開館日数	150日以上（法第12条2号）	100日以上（規則第19条5号）
資料	法に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること（法第12条1号）	博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること（規則第19条2号）
施設等	法に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること（法第12条3号） 建物延面積 165 m ² 以上（登録審査基準）	博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること（規則第19条2号） 建物延面積 132 m ² 以上（指定審査要項）
登録等によるメリット	<ul style="list-style-type: none"> ・美術品補償制度の対象となる ・博物館実習ガイドラインに定められる、望ましい実習先に認められる ・県民税、事業所税、不動産取得税等の免除 ・博物館で陳列する標本等の輸入関税の免除 （税制面の優遇は、私立登録博物館のみ）	<ul style="list-style-type: none"> ・美術品補償制度の対象となる ・博物館実習ガイドラインに定められる、望ましい実習先に認められる

施設の概要・沿革

施設名称	アートギャラリーミヤウチ
所在地	広島県廿日市市宮内字高通4347番地2
目的	より豊かで充足した生活環境を創造することを願い、芸術文化の振興に資する事業を行うことによって、活力ある芸術創造と地域社会の発展に寄与すること
沿革	・平成25年9月1日 開館
組織体制	代表者1名(理事兼務), 学芸員1名, 事務員2名, 理事4名(非常勤), 評議員4名(非常勤), 監事1名(非常勤)
主な収蔵資料	芸術に関する資料 全534点
常設展入館料 ()内は団体	常設展: 一般200円・学生100円(団体10%割引), 企画展: 一般500円程度・学生300円程度(団体10%割引)
開館時間	10時00分～17時00分
休館日	火曜日・水曜日

主な常設展, 企画展, その他実施事業

名称	期間	概要
灰谷コレクション	令和2年3月20日～6月28日	画家灰谷正夫らの収蔵作品に関する特別企画展(配布資料P9,10)
廿日市市宮内近隣地区宮内・宮園・四季が丘小学校児童作品展2020	令和2年2月8日～2月24日	近隣小学校の児童の作品を展示。期間中に、親子で楽しめるワークショップを開催(配布資料P11,12)
音楽イベント「LIFE」	平成31年2月24日	equal cinemaが企画した、アンビエントミュージックやサウンドアートを軸とするイベントに、会場を貸し出した。(配布資料P13,14)
梶コレクション志條みよ子の眼と愛	平成30年4月22日	梶コレクションに関するトークイベントを実施(配布資料P15)
FLOATING URBAN SLIME/SUBLIME	平成29年11月18日	クリエイターが集まり、トークイベントを実施した。(配布資料P16,17)

GALLERY INFORMATION



ビルの2・3階がギャラリー

当財団の運営施設であるアートギャラリーミヤウチが所在する広島県廿日市市は、世界遺産の厳島神社をはじめとする重要な文化財を所有し、コンサートホール、ギャラリー、美術館などの文化施設に恵まれ、広島県の主要文化都市として位置づけられています。このような恵まれた環境であるため、当財団は教養としての芸術文化提供の場に終わることなく、魅力あふれる芸術創造の推進・支援をはじめ、市民自らが学び、楽しみ、創造し、笑顔や活力を生み出す契機作りを企画していきます。

その活動が心豊かな生活のスパイスとなり、地域の活性化に寄与できるよう多様かつ充実した事業を展開していく所存です。また「ヒロシマ」は国際的に知名度が高く、さらに近年瀬戸内国際芸術祭を契機に、瀬戸内地方の芸術に対する注目度も高まっています。当財団も廿日市市だけにとどまらず広島県全体の芸術文化の発展に尽力を挙げて参ります。

この運営施設を通し、市民と来訪して下さった方々、芸術を愛する人たちとの交流を促進し、少しでも元気になって頂ければ幸いです。

公益財団法人みやうち芸術文化振興財団
代表理事 野村 陽平

- 主な事業： ① 常設展・特別展の開催
② ワークショップ・講演会などのイベント開催
③ スペースレンタル

アートギャラリーミヤウチは2013年9月1日にオープンしました。展示・イベント・創作活動による芸術文化と地域社会の発展を目的としています。既存のプログラムにとらわれず様々な領域が交錯するスペースとして、自らが学び、楽しみ、創造し、笑顔や活力を生み出す契機作りを企画していきます。



1F エントランス



3F 特別展：空風一掃かなサイナー [2013] 展示風景

利用案内

※現在 10:00 ~ 17:00

▶ 開館時間：11:00-18:00 (入館は閉館の30分前まで)

▶ 休館日：火・水曜日、お盆、年末年始

* 展覧会によって開館日が変動する場合があります

* 展示替え期間中は休館する場合があります

▶ 観覧料：[常設展] 一般 200円 (100円)

[特別展] 一般 500円 (300円) 程度

* 特別展は展覧会によって異なります

() 内は、学生及び10名以上の団体料金

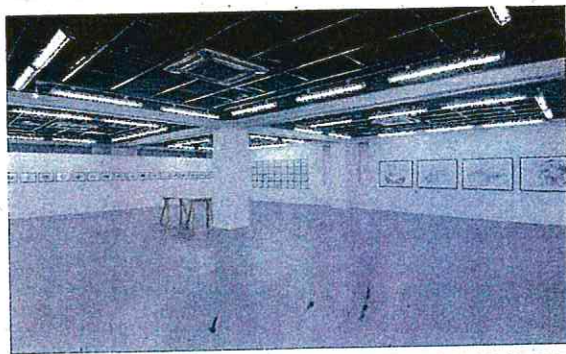
高校生以下または18歳未満・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

展覧会

年間2-3回の常設展、特別展を行います。絵画、立体、写真、映像、インスタレーション等、多様な作品の展示を計画しています。展示内容やスケジュールは、ホームページやメールマガジンなどで随時配信していきます。また、3Fにはフリースペースも併設しており、図録の閲覧や、休憩場所としてご利用いただけます。



聴る、響く、植物の声。—The VOICE of the Plant— [2014]



塊玉香織 | 方眼紙と線 [2015]



後援70周年記念事業 TODAY IS THE DAY: 宗琳への挑戦 [2015]



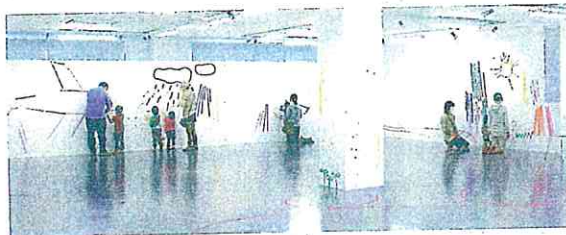
はつかいちー響かれる場所— [2014]



今はもう存在しない量の光を美しいと思う理由 [2015]

創作体験活動・講座

幼児・児童を対象とした創作体験活動や、様々な分野の専門家をお招きする講座を定期的で開催しています。



創作体験活動「点と点をつないだら何が見える!?」 [2015]



シンポジウム「ヒロシマ Manifesto」 [2015]

交通案内

*料金は 2017 年 9 月現在

○ お車をご利用の場合 (広島市内より約 30 分、駐車場あり: 約 10 台)

西広島バイパスをご利用の方は「廿日市市街方面」へ下車。「宮内交差点」から県道30号(廿日市佐伯線)へ入り、佐伯・吉和方面へ約1.5km 直進。「宮内工業団地入口」交差点のファミリーマートを過ぎ、左手すぐ。

○ 電車をご利用の場合 (広島駅から宮内串戸駅まで 22 分、320 円)

JR 山陽本線「宮内串戸」駅で下車し、駅前広電バス停留所にて広電バスに乗り換え (佐伯線・1 番乗り場)。
*引き続き、「バスをご利用の場合」をご参照ください。

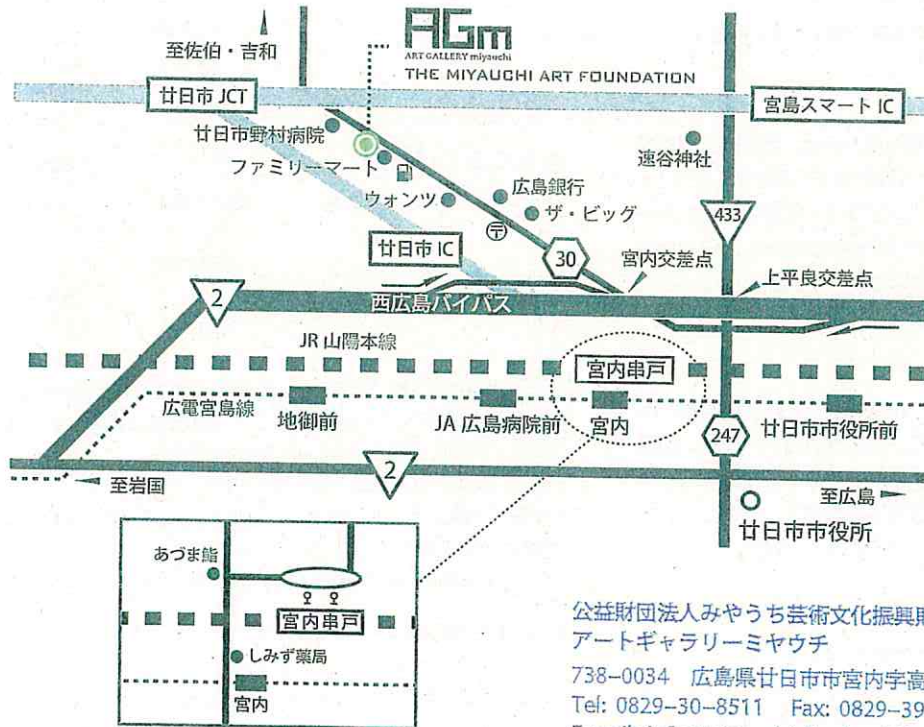
○ 広島電車をご利用の場合 (紙屋町西から宮内まで 46 分、260 円)

広電 (宮島線)「宮内」駅で下車し、広電バス「宮内串戸駅」停留所まで移動 (徒歩 3 分、下図参照)。
広電バスに乗り換え (佐伯線・1 番乗り場)。
*引き続き、「バスをご利用の場合」をご参照ください。

○ バスをご利用の場合 (宮内串戸駅から佐原田まで 8 分、190 円)

広電バス「宮内串戸駅」より佐伯線・1 番乗り場の【津田—廿日市市役所前駅 (津田行き)】【津田—ショッピング楽々園 (津田行き)】【広電吉和車庫—廿日市市役所前駅 (広電吉和車庫行き)】【上栗栖—廿日市市役所前駅 (上栗栖行き)】のいずれかの路線に乗りし「佐原田 (さばらでん)」停留所で下車。

*宮内串戸駅と佐原田間のバスは、平日は 1 時間に 2 本、土日祝日は 1 時間に 1 本程度の運行です。



公益財団法人みやうち芸術文化振興財団
アートギャラリーミヤウチ
738-0034 広島県廿日市市宮内字高通 4347 番地 2
Tel: 0829-30-8511 Fax: 0829-39-8931
E-mail: info@miyauchiaf.or.jp HP: www.miyauchiaf.or.jp
Facebook: www.facebook.com/artgallerymiyauchi
cover work: Tomoe Nagaoka

RENTAL SPACE



2F 展示室を、展示、イベント、セミナーなどの会場として貸し出します(年間2-3回の特別展の会期中を除く)。

▶利用概要

利用時間：開館日(特別展期間中を除く)の9:30-18:00
 利用日数：1日から *30日以上の場合は要相談
 休館日：火・水曜日、お盆、年末年始
 予約受付期間：使用日の6ヵ月前の同一日から
 *収益目的等の催事の場合は4ヵ月前から

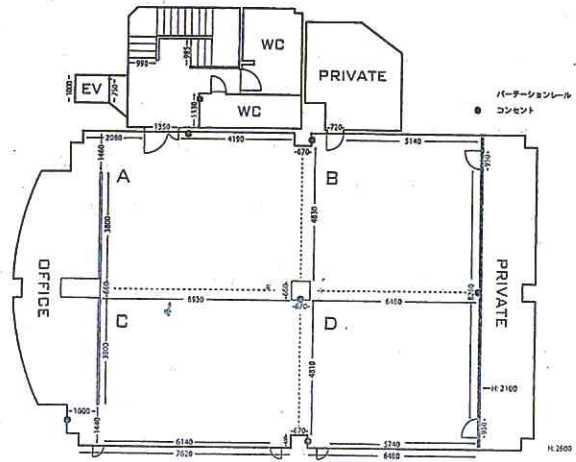
▶申込方法

所定の借用申込書に必要事項をご記入の上、当財団まで直接持参、または郵送、FAX、メール添付にてご送付ください。折り返し、こちらからご連絡差し上げます。借用申込書は、ホームページ(www.miyauchiaf.or.jp/agm/rental)からダウンロードしていただくか、当財団にご請求ください。

▶設備・貸与可能備品

当ギャラリーはピクチャーレールがありません。絵画やパネルなど壁架けの展示はビス打ち、または両面テープでの設置となります。重量によっては天井からの吊り下げ展示も可能です。原則として利用者様で設営等の準備をしていただきますが、設営補助が必要な場合はお申込みください。

展示備品：展示台、スポット、机、椅子など
 設営備品：脚立、水平器、掃除用具、工具一式
 *他の利用者との共有備品となりますので数に限りがあります。その他、使用に関しては別途「展示室貸与に関する規程」及び「利用案内」を必ずご確認ください。



4区画にわたる移動式のパーティションが20枚あります。
 サイズ：H190×W90 cm/枚 1面(.....の箇所)に最大5-6枚設置可能

▶レンタル料 (円/1日)

廿日市在住の方は30%OFF

A-D (全区画)	一般	16,000
約165㎡(約50坪)	賛助会員	14,400
	(収益目的等)	
	一般	32,000
	賛助会員	28,800
A, B, C, D (1区画)	一般	4,000
各約35-40㎡(約12坪)	賛助会員	3,600
	(収益目的等)	
	一般	8,000
	賛助会員	7,200

*搬入日は利用期間に入りません(但し搬入は前日の利用時間内)。
 *賛助会員の割引料金の適用については、当該年度の会費を完納した方に限りませんが、申込当日の入会・支払も可能です。
 個人：¥2,000(1口)、法人：¥10,000(1口)
 *「収益目的等」とは、作品の販売を主たる目的とする展示販売会や、当財団が掲げる事業目的外とみなされる催事等です。事業の公益性については申込書に記載の事業内容にて判断いたします。

◎利用日数や学生対象の割引があります

▶5-9日間：15%OFF ▶10-14日間：20%OFF ▶15日以上：35%OFF
 ▶18歳以上の学生は通常の10%OFF *賛助会員割引との併用不可
 ◎1日単位ではなく時間貸しも可能です(収益目的は倍の料金)
 ▶4区画(全面)：¥3,200/1時間 ▶1区画：¥800/1時間

灰谷コレクション

画家・灰谷正夫がふれたもの

殿敷侃 日和崎尊夫 まつだなる

岩岡貞美 宇根元警 浜崎左髪子 福井芳郎 船田玉樹 丸木俊 山路商(死)

入野忠芳 小坂格 貫志朗 浜田ゆうこ 出原二郎

井上長三郎 鶴岡政男 久田弘 溝田コトエ 熊谷守一 小林誠生 八幡健二



十景コレクション

二〇二〇年三月二十日(金・祝)ー四月十九日(日)
アートギャラリーミヤウチ

開館時間：10:00ー17:00 (入館は16:30まで) 休館日：火・水曜日 (但し3/24、4/14は開館)
観覧料：300円(200円) ()内は学生・10名以上の団体料金、高校生以下または18歳未満・各種障害者手帳をお持ちの方は無料
主催：公益財団法人みやうち芸術文化振興財団 後援：廿日市市教育委員会
広島県廿日市市宮内4347番地2 電話：0829-30-8511 ホームページ：www.miyauchiaf.or.jp

協賛員有刺金 灰谷コレクション

1907(明治40)年現在の広島県安芸高田市に生まれた画家・灰谷正夫。1922年、鬮光、野村守夫と共に図案工として印刷所に勤め、画家になる決心をします。上阪、上京で絵を学び、1935年に帰広してからは写真修整工として働きながら、戦後は自由美術協会を中心に活躍しました。当館所蔵の梶コレクション*にも作品が10点あり、広島の前衛美術、戦後美術の歴史を辿る上でも重要な人物の一人です。

この度、灰谷のご遺族より灰谷自身の作品と共に灰谷が所蔵していた作品、そしてご子息が所蔵していた作品や関連資料を寄贈いただく運びとなり、初公開を機に特別企画として展示します。灰谷の作品の中には、小作品ながらも上京時初入選を果たした頃や、戦後本格的に画業を復活した頃に描かれた油画など、灰谷の画業における転換期とも言える作品が残っています。コレクションには、広島フォルム美術協会を共に結成した岩岡貞美、自由美術協会の同世代作家の井上長三郎や鶴岡政男、広島で活躍した一世代下の入野忠芳、貫志朗といった作家など約20名の作品があります。また、灰谷との親交が深く、現存する作品数が少ない山路商のものと思われる作品や山路が写った写真も多数保管されていました。これらの作品や資料から灰谷がふれてきた人やものを改めて辿り、梶コレクションの関連作品と共に広島美術史を巡る機会とします。

*「梶コレクション」は、広島画家を紹介、育てることに力を注いだ「画廊梶(1966-86)」のオーナー志條みよ子(1923-2013)のコレクション約200点。



左) 灰谷正夫 中) 灰谷正夫, 題名不明, 1949, 油彩・板 右) 灰谷正夫, 題名不明, 1967頃, 水彩・紙 (梶コレクション)

灰谷 正夫 / HAITANI Masao

1907年現広島県安芸高田市吉田町に生まれる。1922年広島市・谷口印刷所で働き、1924年から大阪市天王寺新燈社美術研究所に学ぶ。1926年上京。古賀春江に師事。1929年「第4回 1930年協会展」に入選。1930年二科会入選、広島にて山路商、野村守夫らと写真派展。1935年に帰広。1938年山路商、岩岡貞美らと広島フォルム美術協会を結成。1950年自由美術協会展に入選、以後出品。1951年広島県美術展覧会にて県知事賞。1971年自由美術協会脱会、二科展に出品、翌年会友。1977年二科会会友返上、以後無所属。1985年没。現代の狂気に向き合い続け、パウル・クレーやシュルレアリスムに影響を受けた作品や、たらしこみ技法を用いた緻密な画風で知られる。



左) 岩岡貞美, 題名不明, 油彩・キャンパス 中) 井上長三郎, (顔) 油彩・キャンパス 右) 貫志朗, 題名不明, 1971, 油彩・キャンパス

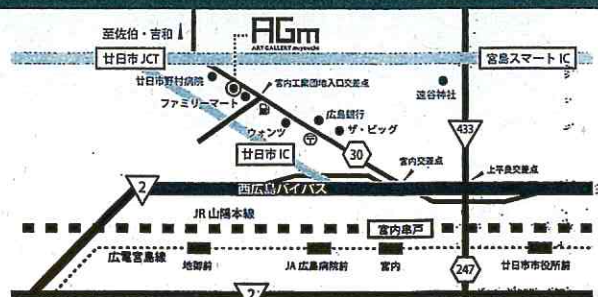
出品作家

灰谷正夫、井上長三郎、入野忠芳、岩岡貞美、宇根元警、熊谷守一、小坂格、小林敬生、鶴岡政男、出原二郎、貫志朗、浜崎左髪子、浜田ゆうこ、久田弘、福井芳郎、船田玉樹、丸木俊、溝田コトエ、八幡健二、山路商(仮) 殿敷侃、日和崎尊夫、まつだなる ほか梶コレクションより数名

トークイベント：灰谷正夫を語る

日時：2020年3月22日(日) 14:00 - 15:30
講師：金田 晋 (美学者)
戦後広島美術の動向を含めて灰谷氏についてお話いただきます
※予約不要、聴講無料(但し要観覧券)

交通案内：西広島バイパスご利用の方は「廿日市市街方面」へ下車、宮内交差点から県道30号を佐伯・吉和方面へ約1.5km、「宮内工業団地入口」交差点を過ぎすぐ、駐車場あり(約10台)。公共交通機関の場合は、JR山陽本線「宮内車庫駅」、または広電宮島線「宮内駅」下車後、JR駅前の広電バス(1番乗り場、津田・吉和行き)に乗り換え約10分、佐原田(さばらでん)停留所下車すぐ。バスは1時間に1~2本程度の運行です。



AGm
ART GALLERY miyauchi

お問い合わせ：アートギャラリーミヤウチ
738-0034 広島県廿日市市宮内4347番地2
Tel: 0829-30-8511 Fax: 0829-39-8931
E-mail: agm@mivauchi.or.jp www.mivauchi.or.jp

廿日市市宮内近隣地区

宮内・宮園・四季が丘小学校 児童作品展

2020

犬の肖像
「犬」松田 一歩輝
(宮内小5年)



「雪だるまのおまつり」
佐藤 遼梨 (四季が丘小5年)

入場無料

みやうちみやその しきが「おか」

2020.2.8(土) - 2.24(月)

火・水休み

アートギャラリーミヤウチ



「プレイボードにのれたこと」岩谷 恵都 (宮園小3年)

開館時間：10:00 - 17:00 | 最終入館は 16:30 まで | 休館日：火・水曜日 主催：公益財団法人みやうち芸術文化振興財団、廿日市市立宮内小学校、廿日市市立宮園小学校、廿日市市立四季が丘小学校 後援：廿日市市教育委員会

AGM

2020.2.8(土) - 2.24(月)

今年もアートギャラリーミヤウチでは、廿日市市宮内近隣地区にある宮内小学校、宮園小学校、四季が丘小学校の児童による合同作品展を開催いたします。3校の全クラスから各5～6点の絵画、工作などを選出し、約150点を一同に公開します。ギャラリー近隣の小学校に通う児童さんが、日頃授業で取り組まれている創作活動を、鑑賞を通じて触れていただく機会となれば幸いです。この合同展示は今年で5回目となります。今後も続けて学校、地域の皆様との連携により発表の場をつくっていききたいと思います。是非児童さんの力作をご覧ください。



「6年間の思い出がつまった中庭」尾崎涼夏(宮園小6年)



「森の中」平野真夕(宮内小4年)



「専念寺」眞壁優輝(宮内小6年)



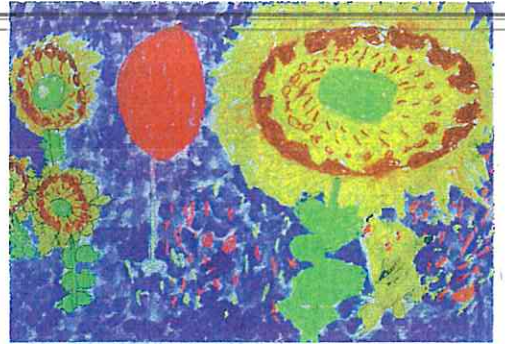
「しんかんせんとくるまどさかなのなかまたち」谷畑 翔瑛(宮園小1年)



「カラフルな島」倉恒 祐輝(四季が丘小4年)



「はなさかじいさん(絵本より)」遠 想佑(宮内小1年)



「花いっぱいになあれ(教材より)」塩見 昌大朗(四季が丘小1年)



「すてきなびんとバラ」上田 奈庸(四季が丘小2年)「運動会(紅白リレー)」西田 雅良(宮内小3年)



ワークショップ 親子で楽しむ色あそび

日時：2020年2月9日(日) 10:00-12:00

対象・定員：小学生と保護者のペア10組 *要予約

参加費：500円/組

講師：西本真祐子(アトリエラッカプラネット)

内容：子どもも大人もそれぞれ創作し、つくったものを鑑賞しながらお互いの良いところを見つけていきます

申込：下記の電話、FAX、Eメールのいずれか宛に参加者のお名前、連絡の取りやすい電話番号をお知らせください。

★ 次回、収蔵作品の中から広島出身の画家・灰谷正夫氏の作品と氏がコレクションしていた作品を展示します [3月20日(金・祝)～4月19日(日)] ★

交通案内

宮内交差点から県道30号を佐伯・吉和方面へ約1.5km、「宮内工業団地入口」交差点を過ぎすぐ。駐車場あり(約10台)。公共交通機関の場合は、JR山陽本線「宮内串戸」駅から広電バスにて約10分、佐原田停留所下車すぐ。

ご支援のお願い

今後も続けて児童作品展をはじめ、地域の皆様楽しんでいただける創作体験活動や展覧会を実施していくために、ご寄附を募っています。当財団へのご寄附は「寄附金控除」として所得控除を受けることができます。お申し込みは、ギャラリー受付またはお電話などでお問い合わせください。



公益財団法人みやうち芸術文化振興財団・アートギャラリーミヤウチ 広島県廿日市市宮内 4347 番地 2
Tel: 0829-30-8511 Fax: 0829-39-8931 E-mail: a2agm@mivauchiaf.or.jp HP: www.mivauchiaf.or.jp



耳で観る映画

equal cinema vol.01

「**LIFE**」

松本一哉 / stabilo / Gallery Six / 遊神 / 田淵祐喜 / nensow
諫山元貴 (映像) / 志水兎王 (展示)

<http://equalcinema.com>

企画 equal cinema 協力 アートギャラリーミヤウチ

equal cinema とは?

アンビエントミュージックやサウンドアートを軸とする音楽イベントです。毎回一つの物語を作り、各チャプターとなるお題を各出演者に渡し、普段の活動の中で大切にしている表現を持ちよってライブを行う事で、映画の様な日常を楽しんでもらう企画となっています。出演者は西日本のアーティストをメインに構成し、毎回1~2人(組) 東日本のアーティストを招き、開催致します。また、音楽以外の表現にも積極的に参加してもらい、実験的な表現の場を構築していきます。第1弾となる今回は耳で観る映画「LIFE」をロードショー。

松本一哉 (ゲスト) : 東京

東京を拠点に活動している石川県金沢出身の音楽家、サウンドアーティスト、作曲家、打楽器奏者、ドラマー。
主に楽器ではなく、波紋音を中心とした音の鳴る造形物や非楽器を使用。
音階や旋律ではなく音の響きそのものや、音の流れに着目し、自然の中での演奏・録音からドキュメンタルな作品作りを行うなど、独自の音楽活動を展開。
自身の演奏と環境音とを繋げていき、空間全体を聴く事で表現する即興音楽は、打楽器奏者の枠を超えより自由に空間の成り立ちを提示できる数少ないアーティストとして様々な分野から高い評価を受けている。
2013年 瀬戸内国際芸術祭の関連事業「おとくち」プロジェクトにてグランプリを受賞。
2015年 自身初のソロ作品「水のかたち」をミニマル・アンビエントの名門レーベル SPEKK からリリース。
2017年 建築家・黒川紀章の初期の代表作である中銀カブセルタワービルにおいて、インスタレーション「サウンドカプセル〜松本一哉自身が見るカプセル〜」を行う。
2nd アルバム「落ちる散る消える」を SPEKK からリリース。
47都道府県全てを回る、全100公演超えの「落ちる散る消えるリリースツアー」を開催。
金沢ナイトミュージアム 2017、神戸開港 150 年記念 港都 KOBE 芸術祭などへの出演や、熊本市現代美術館などで公演を行う。
2018年 ICC 開催「オープン・スペース 2018 イン・トランジション」内で展示される、映像作家・吉岡崇央「Bouquet / いま一番うつくしいあなたたちへ」の音楽を担当。
chago/Residence Gallery(大阪)にて7月31日—8月6日の期間中、音を展示し続ける動態展示「モメント/メント」を開催。
大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ「あざみひら演劇祭 2018」にパストリオ+松本一哉「黒と白と幽霊たち 筋平版」で出演。
11月には金沢 21 世紀美術館の芸術交流共催事業の一環としての公演を行う。
<http://www.horhythm.com>

遊神 : 岡山

遊神 (imagenos) - 能勢遊神 Yujin Nose
2018年より Imagenos から本名の遊神に表記変更。
2010年より岡山を中心に活動。無形の音像から音を具象化させる。ノンビートの中にあるリズムを、反乱する音の中から紡ぎあげる。
drone、noise、ambient などの音楽を展開。PC、フィードバック、自作楽器、シンセサイザーなどを用い、様々な方法で演奏を行う。
ノンビートからリズムを生み出す為試行錯誤中。
2018年よりモジュラーシンセを導入、移行。
過去に即興で Session LIVE を様々なアーティストとおこなう。
2015年・86B210 (アバングルドダンスデュオ) の井口桂子氏
2015年・Cazu-23 (TURTLE ISLAND/Gt のソロ)
2017年・灰野敬二氏
2018年8月・岡田浩氏
9月・沼田順氏
活動はソロに留まらず、YES WE ARE ALL MEN (バンド/Sludge Doom)、The Last Supper (ユニット/NOISE)、モジュララ (バンド) でも活動。
また 1974 年から営業している岡山ペーパーランドで長年音響を務め、レコーディングエンジニアも行う。
自主企画 [VISION!!!] シリーズを主催する。
2017年3月にデモ音源として「no_image #1」を発表。
2018年3月に二作目のデモ音源「緑」を発表。
<http://www.pepperland.net/imagenos/>

stabilo(speaker gain teardrop) : 広島

広島で活動を続ける音響系バンド「speaker gain teardrop」の Gu 担当ホリベヤステカのソロプロジェクト。バンド側では表現出来ない音楽を求め 2002 年ラップトップにて音楽製作を開始。
2008 年ヘルギーのレーベル「u-cover」からアルバム「ovum」をリリース。
2013 年末から現在まで約 4 年以上に渡るアンビエント / ドローンに焦点を当てたアルバム、EP を毎月連続でリリース。その他アメリカ、イギリス、ギリシャ、オーストラリア、スペイン、ポルトガル、インド等のレーベルから音源を多数リリースしている。
エレクトロニカ / ポストロック / 電子音響イベント「layer of perspectives」代表。
<http://speakergainteardrop.com/stabilo>

Gallery Six : 広島

広島を拠点に活動するアーティスト、コンポーザー、今重秀一によるソロプロジェクト。ドラマーとして音楽のキャリアをスタート。
様々なバンド活動を経て、2008 年頃よりアンビエントミュージックの制作を始め、Twisted Tree Line(UK)、element perspective(JP)、より EP をリリース、また自主制作のアルバムもリリースする。
2010 年、音楽、写真、映像、その他各種アートを創造するクリエイターが参加し、総合的にモノや空間を創ることを目的とする集団、「ArtLism-JP」の創設に加わる。
『ごく身近で忘れられがちな自然や事象に隠された美を多角的に考察し、それを暴露する』というテーマを元に、主にシンセサイザーを使用したドローンサウンドと、気の赴くままに出かけフィールドレコーディングされた素材をミックスしたサウンドスケッチを制作している。
<http://galleriesixmusic.com/>

田淵祐喜 : 岡山

岡山出身。ポストロック、エレクトロニカ、アンビエント、ドローン、ミニマルミュージック等から影響を受ける。
2011 年から多くのエフェクターを用いたギター演奏を開始。
2017 年岡山、香川を拠点に活動しているドローンユニット壊れたホテルとスプリットをリリース。同年岡山在住のペインター Kouyama Masahiro と共に、ライブペインティング中に即興演奏を行い録音し音源化する「Painting&Improvisation」を開始。現在までに 4 枚の作品をリリース。

nensow : 岡山

岡山を拠点に活動。カリンバやエフェクター、手製の楽器を用いて演奏する。
2018 年、営業中のカフェ店内にて、開店から閉店まで一日通して行った演奏の一部を収録した「moyau」をリリース。

諫山元貴 (映像) : 広島

1987 年生まれ。「崩壊」をキーワードに均一化しつつある世界に與行きや情緒を与えるイメージを舞台背景を思わせる巨大プロジェクトの映像や鏡にカメラ柄を施した作品などで作り出す。主な展覧会に、「テレポーティング・ランドスケープ」(アートギャラリーミヤウチ、広島、2017)「Sights and Sounds: Japan」(The Jewish Museum、ニューヨーク、2016)、「UTOPIA-何処にもない場所」(ART BASE 百島、広島、2012) などがある。

志水鬼王 (展示) : 広島

1966 年東京生まれ。広島在住。東京藝術大学美術学部大学院修了。1994~2006 年、レーベル「Wrk」に参加。
2008~2010 年コペンハーゲンを拠点に活動。広島市立大学芸術学部准教授。
主な展覧会に、「六本木クロッシング」森美術館 (東京/2004)、「釜山ビエンナーレ 2008」釜山市立美術館 (釜山/2008)、「日本のサウンドアート」ロスキレ現代美術館 (コペンハーゲン/2011)、「オープンスペース 2014」NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] (東京/2014) ほか。

equal cinema vol.01

2019年2月24日(sun) アートギャラリーミヤウチ

OPEN 13:00 / START 14:00

終了予定 18:10 / CLOSE: 19:00

チケット通し券: 前売り 2,500 円 / 当日 2,800 円

チケット各部券: 前売り 1,000 円 / 当日 1,200 円

学生全チケット半額 (要学生証) / 5 歳以下は入場無料

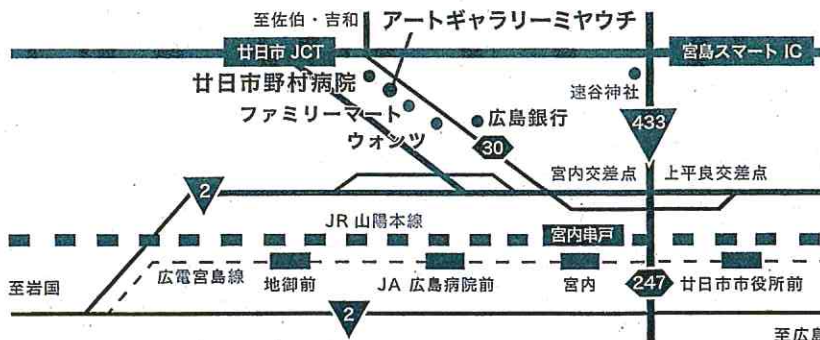
※各部券は 1,2 番手を第 1 部、3,4 番手を第 2 部、

5,6 番手を第 3 部としております。

※出演順等の詳細は equal cinema 特設サイトをご覧ください。

website <http://equalcinema.com>

予約・お問い合わせ: info@equalcinema.com



チケット通し券をご購入 + 当フライヤーを会場にご持参
いただいた方に松本一哉 & stabilo による当イベント限定
共作曲のフリーダウンロードコードを無料配布致します。



広島県廿日市市宮内字高通 4347 番地 2
<http://miyauchiaf.or.jp/>
企画 equal cinema 協力 アートギャラリーミヤウチ

収蔵作品特別企画展

梟コレクション

志條みよ子の眼と愛

かつて広島市の繁華街の一角に「画廊梟(ふくろう)」がありました。梟のオーナーで、文筆家の志條みよ子(1923-2013年)は、戦後間もなく文化人が集まる「酒場梟」を開業。酒場のある通りを通称「なめくじ横丁」と名付け、1966年に念願の「画廊梟」に改装しました。取り扱った作家は、広島の前・戦後美術史における重鎮作家の福井芳郎、灰谷正夫、船田玉樹から、当時若手だった殿敷侃、入野忠芳、田谷行平、久保俊寛といった画家です。1986年に横丁の立ち退きに併せて閉廊、その後は自宅を「梟の部屋」とし、晩年まで作品に囲まれて生活していました。

2016年志條の愛蔵品(梟コレクション)約200点を、アートギャラリーミヤウチで収蔵する運びとなり、このたび初公開を機に、コレクションの主な作品と資料を展示します。

最後になりましたが、貴重な作品・資料をご寄贈いただきました志條さんのご遺族の皆様、また本展を開催するにあたり、多大なご協力を賜りました作家の皆様や関係各位に心よりお礼申し上げます。

2018年3月
アートギャラリーミヤウチ



志條みよ子 / SHIJO Miyoko



GALLERY FUKUROU SHIJO MIYOKO COLLECTION

1923年6月広島生まれ、文筆家。1950年初頭から酒場梟を営み、地元文化人をはじめ、評論家の青山二郎、作家の井伏鱒二、写真家の土門拳らも広島に来ると訪れる店となった。1953年、中国新聞紙上で巻き起こった「第1次原爆文学論争」と呼ばれる議論の口火を切る。安易に原爆の惨状にふれる表現、そして広島では原爆を取り上げない小説や絵画は真の作品として認められないような風潮を批判した。広島市内にまだ美術館がなかった1966年画廊梟を開業し、優れた審美眼により広島画家を紹介、育てることに力を注いだ。1986年の閉廊まで250件近い展覧会を開催。2013年3月没。

In association with Art Gallery Miyauchi
18 November 2017 - 8 January 2018

Floating

FB: @FloatingUrbanSlimeSublime
Instagram: @floatingurbanslime:ublime
Twitter: @FloatingSublime
Tumblr: floating-urban-slime-sublime.tumblr.com

COMPRESSED
CONTEMPORARY
CROSS-GENRE
CULTURAL
COMPLEXITY
COLLATING
CONTRADICTION

Hiroko NAKAJIMA/Tamaki ONO/Shoji KATSUME
Nicola MORRISON/Tatsuo SUGIMOTO/Shooshie SULAIMAN
Martin THOMAS/WE+/Ryota YAMADA/Peter YEOH
Sze Yang BOO/James BROOKS/Hua Kuan CHEN SAI
Yutaka INAGAWA/Megumi IWAFUCHI/Lens/Rupert LOYDELL
Soshi MATSUNOBE/Kiyohito MIKAMI/Wong PING

Floating Urban Slime/Sublime

2017年11月18日(土) — 2018年1月8日(月・祝)

アートギャラリーミヤウチ

■ 開館時間 11:00 - 18:00 (最終入館は17:30)

■ 休館日 火・水曜日、12月30日 - 1月3日

■ 観覧料 一般 300円 [200円] / 学生 200円

* []内は10名以上の団体料金、高校生以下または18歳未満・各種障害者手帳をお持ちの方は無料

共催：公益財団法人みやうち芸術文化振興財団

助成：NATIONAL ARTS COUNCIL SINGAPORE

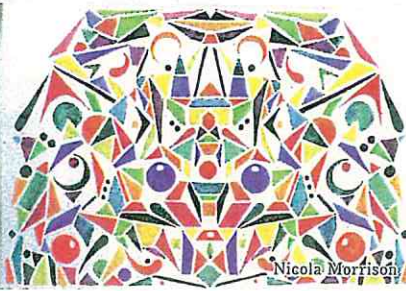
協力：Edouard Malingue Gallery、小山登美夫ギャラリー、HAGIWARA PROJECTS

企画発案/ディレクター：稲川豊
企画協力/アートディレクション：藤日祥二&基本ひとみ (STUDIO NIJI)
FUSS カウントダウン：杉本達隆 & 稲川豊
メディア・パートナー：Glass Magazine

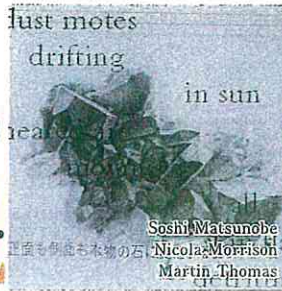
Floating Urban Slime / Sublime



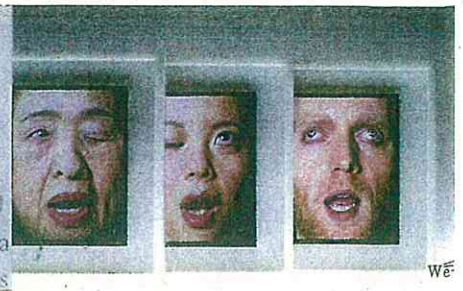
Yutaka Inagawa



Nicola Morrison



Just notes drifting in sun
Soshi Matsunobe
Nicola Morrison
Martin Thomas



We+

“ポスト・インターネット時代を反映した創造的プロセスにおける可謬性や多義性を祝う投げかけ。

「失敗」に新たな解釈を施すことで生まれる豊穡な多様性。そこから導き出される脱構文 誤文法の方程式。

気まぐれな換言や作作的な転置は樹となり、すでに揺らいでいる合理性と急速に広がっている不確実性の間に存在する力学の決壊を促す”

——「Floating Urban Slime / Sublime」ディレクター 稲川豊

「ピンク・スライム」と呼ばれるピンク色をしたペースト状の加工食肉は、アメリカでは安全性に問題がないとされているためにアンモニアで防腐処理されていても表記の必要がなく、消費者は知らないうちにその不気味な物体を口にしてしまう。含有物の痕跡がなくなるまですり潰され別のものへと姿を変えるピンク・スライムは、食においてだけでなく、現代のインターネット社会において快適さや手軽さの裏に潜んで、私たちの日常を脅かすものの比喩と捉えることもできるだろう。データ化された情報の断片が無数に漂い、物事が複合的に、またパラレルに関わり合う現代社会の中で、このスライムは有機的に広がり続ける。そこでは、私たち一人ひとりが論理的な思考にとらわれずにズレや違和感へと目を向け、自ら浄化作用を働かせてスライム (slime) をサブライム (sublime) することが求められているようだ。

オンラインとギャラリースペースにまたがるクロス・ジャンルな実験の場を創出するコンテンポラリー・プロジェクト「Floating Urban Slime / Sublime」では、多様な領域のアーティストやクリエイターの表現が謎かけのように配置され、見る者にズレや違和感を感じさせるような場が作り出される。そこからは、今まで私たちが見過ごしてきた何かへと向き合うヒントが導かれるだろう。

オープニング・パーティー & パフォーマンス

2017年11月18日(土) 18:00 - *申込不要

■ パフォーマンス
 コントリビューター：ヒロコ ナカジマ
 パフォーマー：FUSS

クリエイターズ・トーク

2017年11月19日(日) 14:00 - 16:00 *申込不要

参加クリエイター：稲川豊、We+、小野環
 勝目祥二、兼本ひとみ、杉本達彦、松延総司
 フア・クアン・チェン・サイ、Lens (予定)

参加クリエイター (居住国)

稲川豊 (日本) | イワフチメグミ (日本) | We+ (日本) | ウォン・ビン (香港) | 小野環 (日本) | 勝目祥二 STUDIO NIJI (日本) | シュシ・スライマン (マレーシア) | ジー・ヤン・ポー (シンガポール) | ジェームス・ブルックス (イギリス) | 杉本達彦 (日本) | ニコラ・モリソン (イギリス) | ヒロコ ナカジマ (香港) | ピーター・ヨウ (アメリカ) | フア・クアン・チェン・サイ (シンガポール) | マーティン・トーマス (イギリス) | 松延総司 (日本) | 三上清仁 (日本) | ルーバート・ロイデル (イギリス) | Lens (日本) | 山田亮太 (日本)

■ アクセス

- ・電車 1. JR山陽本線「宮内串戸駅」で下車、広電バス「宮内串戸駅」より乗り換え
 2. 広電宮島線にて「宮内駅」で下車、広電バス「宮内串戸駅」より乗り換え
- ・バス 広電バス「宮内串戸駅」(1番)より佐伯・吉和方面に乗り、「佐原田」停留所で下車
 ※ 平日は1時間に2本、土日祝日は1時間に1本程度
- ・お車 西広島バイパスから廿日市市街方面へ。宮内交差点から県道30号を佐伯・吉和方面へ約1.5km、「宮内工業団地入口」交差点を過ぎすぐ(駐車場10台)

■ お問い合わせ

公益財団法人みやうち芸術文化振興財団・アートギャラリーミヤウチ
 広島県廿日市市宮内4347番地2
 Tel: 0829-30-8511 / E-mail: agm@miyauchiaf.or.jp / URL: www.miyauchiaf.or.jp

